

一二〇六番

沖おきつ波なみ 辺へつ藻も巻まき持もち 寄よせ来くとも 君きみにまさ
れる 玉たま寄よせめやも

一二〇七番

栗あはしま島まに 漕こぎ渡わたらむと 思おもへども 明あかし石しの門と波なみ
いまだ騒さわけり

一二〇八番

妹いもに恋こひ 我あが越こえ行ゆけば 背せの山やまの 妹いもに恋こひ
ずて あるがともしさ

一二〇九番

人ひとならば 母ははが愛まなこ子こそ あさもよし 紀きの川かはの辺へ
の 妹いもと背せの山やま